

【クレーム情報】

合成皮革のポリウレタン樹脂の劣化による剥離

ポリウレタン樹脂などを織編物にコーティングした合成皮革は天然皮革に比べて安価・軽い・柔軟性に富むなどの特性がある反面、経時劣化が避けられない素材です。今回は、合成皮革製品の典型的な事故事例である剥離について紹介します。

■事故の状態

ダウンジャンパーの裾内側や袖口部分などに使用している合成皮革のポリウレタン樹脂が剥離した状態になっている。組成表示では、革部分は山羊革となっているため利用者が剥離したことに疑問を持ち、申し出があったもの。

■原因

ポケットやファスナーの装飾は山羊革で、事故が生じている部分は合成皮革であったため、コーティングしているポリウレタン樹脂が長期の使用の間に空気中の水分などによる作用を受けることやクリーニングの処理を繰り返したことで劣化し、剥離したものの。

■事故の防止対策

合成皮革などに使用されるポリウレタ

ン樹脂の経時的な劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

ポリウレタン樹脂は空気中の水分による加水分解などにより、通常2〜3年で劣化することが明らかになっており、クリーニング事故賠償基準では合成皮革（ポリウレタン樹脂）の外衣の平均使用年限を3年としている。

■合成皮革製品全般に対しての注意事項

合成皮革は、織物や編物の基布にポリウレタン樹脂などをコーティング（塗布）したものの。合成皮革の多くは基布とスポンジ層と皮膜の3層構造になっている。剥離は、スポンジ層と皮膜の両方の部位に生じる。合成皮革製品全般に対して、次のような配慮が求められる。

・ 取扱表示などを参考に、洗える製品かどうかを確認する（水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある）

・ 汚れが付着しやすく、かつ着用摩擦を受けやすい生地を折返し部分、袖口、裾回り、衿回り、脇下などに異常がないかを確認する（汚れが合成皮革の劣化を促進し、着用摩擦で剥離、脱落等が生じていることがある）

・ べとつきやひび割れなどの兆候があるものは剥離等の生じる可能性が高いためクリーニングできないことを伝え、お断りすることが望ましい

・ 製品を製造してから2年以上経過している場合には、購入の時期に関係なく劣化が進行しており、クリーニング処理で剥離等が生じる可能性のあることを伝える



写真1 ファスナー上部と裾内側、袖口部分などに合成皮革を使用したジャンパー



写真2 裾内側、袖口部分などに使用されている合成皮革のポリウレタン樹脂が経時劣化し、剥離している

- 品 物…ダウンジャンパー
- 素 材…表 地：ナイロン100%
裏 地：ナイロン100%
中わた：ダウン90%、フェザー10%
リ ブ：毛50%、ポリエステル50%
ファー：チャイニーズラクーン
革部分：山羊革

